

令和6年度阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会

議事概要

■日時：2025（令和7）年2月25日（火） 10：30～12：00

■会場：弟子屈町公民館 講堂

<議 事>

- （1）今年度実施事業の結果報告
- （2）次年度の予定
- （3）その他

<資 料>

資料1 対策整理表（実施計画より抜粋）

資料2 協議会構成員による今年度の主な取り組み状況

- ①環境省の取り組み
- ②令和6年度エゾシカ捕獲数及びライトセンサス結果
- ③根釧西部森林管理署の取り組み
- ④前田一步園財団の取り組み
- ⑤釧路総合振興局の取り組み

資料3 次年度の予定

- ①次期計画の方向性について
- ②情報共有のあり方について

参考資料1 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画

参考資料2 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会 設置要綱

参考資料3 阿寒摩周国立公園阿寒生態系維持回復事業計画

<出席者一覧>

1. 構成員

所属・役職	氏名
環境省 釧路自然環境事務所 統括自然保護企画官(議長)	岡野 隆宏
林野庁 北海道森林管理局 保全課 野生鳥獣管理指導官	三浦 晋仁【Web】
林野庁 北海道森林管理局 計画課 自然遺産保全調整官	工藤 直樹【Web】
根釧西部森林管理署 地域林政調整官	後藤 健一
網走南部森林管理署 事務管理官	会田 翔
北海道 環境生活部自然環境局 野生動物対策課 エゾシカ対策係 主査	永安 芳江
北海道 環境生活部自然環境局 野生動物対策課 エゾシカ対策係 主任	馬場 千尋
オホーツク総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係長	小川 耕平【Web】
オホーツク総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係 主任	笹川 絵莉子【Web】
釧路総合振興局 保健環境部 暮らし・子育て担当部長	富樫 崇
釧路総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係 主任	牛嶋 あすみ
釧路総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係 技師	竹田 理紗
釧路総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係 主事	中野 未夢
根室振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係 技師	西嶋 圭【Web】
清里町 産業振興課 産業振興グループ 主事	長尾 忍
標茶町 農林課 林政係長	太田 康之
標茶町 農林課 林政係 主事	松江 悠人
弟子屈町 農林課 課長補佐 兼 林務係長	西内 博光
弟子屈町 農林課 林務係 主事補	小野寺 達也
鶴居村 産業振興課 林政係 主事	奥山 祐他
一般財団法人前田一步園財団 森林保全課長	酒井 賢一

2. オブザーバー

釧路市 阿寒町行政センター市民課 環境係 総括係長	府中 慶祐
釧路市 阿寒町行政センター市民課 環境係 主事	坂田 岳斗
釧路市 農林課 阿寒農林振興係 主任	安宅 弘志
大空町 産業課 耕地林務グループ 主事	佐々木 佑弥
北海道旅客鉄道株式会社 釧路支社 企画 次長	中島 直裕
北海道旅客鉄道株式会社 釧路支社 技術 施設グループ グループリーダー	脇原 渉

3. 有識者

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 自然環境部 生物多様性保全グループ 研究主幹 兼 道東地区野生生物室長	稲富 佳洋
学校法人酪農学園大学 環境共生学類 生物多様性保全研究室 准教授	立木 靖之

<環境省・事務局>

環境省 釧路自然環境事務所国立公園課 国立公園企画官	柳川 智巳
同 世界自然遺産専門官	吉田 宗史
同 阿寒摩周国立公園管理事務所 国立公園管理官	白出 晶太郎
同 阿寒湖管理官事務所 国立公園管理官	福田 幸音
特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所 理事長	赤松 里香
同 研究員	小林 恒平
同 研究員	牧野 楓

<意見概要>

発言者	内容
環境省 吉田	●開始挨拶 ●協議会の位置づけの説明 【参考資料２：阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会 設置要綱】 この協議会は、阿寒摩周国立公園の生態系維持回復事業計画およびその実施計画の策定、あるいはそれに基づく対策の実施状況の連絡調整、その他、目標・目的達成のために必要な事項を話し合う場となっています。本日も各機関で今年度取り組まれてきた内容の報告と来年度の予定について、この場で連絡調整させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 ●配布資料の確認
環境省 岡野（議長）	道東のエゾシカは、皆様方の色々な努力で一旦数を減らしていたのですが、近年再び増加傾向となり、農林業被害や交通事故、列車事故等が大きな問題となっています。 本日は阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会ということで、国立公園の名前になっていますが、GPSの調査では国立公園の内外をエゾシカが移動していることが分かっています。特に夏場は国立公園外の牧草地等で過ごし、これが農業被害となっています。牧草はエゾシカにとって非常に栄養価が高いため、エゾシカが増加傾向にあることの要因になっていると考えられます。農業被害を防ぐことは、エゾシカを増やさないことに繋がるので、この地域一帯でエゾシカ対策に取り組んでいくことが非常に重要だと思っています。また、冬場は国立公園内でもエゾシカの捕獲等を実施しているので、そういったことを組み合わせながら、エゾシカ全体の数を抑制できればと思っています。 そういった観点から、この会議では国立公園内外問わず、さまざまな取り組みや情報を共有しながら、地域一帯で対策を進めていくためにご議論をいただきたいので、どうぞよろしくお願いいたします。
(1) 今年度実施事業の結果報告	
環境省 吉田	【資料１：対策整理表（実施計画より抜粋）】
EnVision 小林	【資料２①－１：環境省の取組（植生調査結果）】 【資料２①－２：環境省の取組（GPS首輪による行動追跡結果）】 【資料２①－３：現地研修会の実施概要】
環境省 吉田	本年度については、現在の実施計画が来年度（令和7年度）いっぱい一旦計画期間を終了するため、計画期間の総括に向けてこれまでの実施状況を整理しました。本日もご質問やご助言をいただいた内容を踏まえ、来年度しっかりまとめしていくことを想定しているので、ご不明点等ご質問いただければと思います。

前田一步園財団 酒井	(【資料2①-1：環境省の取組（植生調査結果）】に対して) 全体を通じて、この資料から読み取れることは、被害が収まってきてはいない、または拡大傾向にある、もしくは被害が出た状態が継続しているという認識で間違っていないでしょうか。
環境省 吉田	概ねご指摘いただいた通りの認識で問題ないです。ただし、最初の説明であった通り、植生のタイプによって評価も少し変わります。例えば、森林では横ばいの傾向にありますが、これは調査を開始した時点から被害が大きく、現在もその状態が続いているという評価です。一方、高山の場合、調査開始当初は中程度あるいは小程度だった被害が、かなり大きくなっている地点もあるため、同じ被害がある状況でも変化を詳細に見ると異なる部分もあると思います。しかし、概ねコメントいただいた通り、良化や被害が出ていない地点は多くありません。 資料が見やすいという意見もいただいたので、このようなまとめ方でもう少し細かい情報が分かるように整理し、来年度以降より詳しい総括をしていければと思っています。
環境省 岡野（議長）	今後のモニタリング方針についてもご助言等いただきたいです。
北海道立総合研究機構 稲富	(【資料2①-2：環境省の取組（GPS首輪による行動追跡結果）】に対して) エゾシカが柵の切れ目から侵入しているということが、GPSの結果からも明らかで、やはり柵のメンテナンスは非常に大切だということが示されていると思いました。 これから大事になってくると思いますが、まとめの図を見る限り、阿寒湖側と屈斜路湖側とであまり個体の移動が起きていないという印象を受けました。今後対策を練っていく上で、例えば2地点で行き来があるならば、片方を叩けばもう片方にも効果があるということが見えてきますが、行き来がないならば、それぞれで対策をしなければいけません。実際にGPS首輪を装着している側としては、阿寒湖側と屈斜路湖側での交流はなさそうという印象なのでしょうか。
EnVision 小林	ご指摘の通り、個体が行き来している感覚はあまりないです。 美幌峠牧場はエゾシカの夏の利用地で、美幌峠牧場にいるエゾシカの一部が屈斜路湖または阿寒湖で越冬している可能性はあります。
北海道立総合研究機構 稲富	屈斜路湖と阿寒湖にいる個体が重なる部分（場所）で、しっかりと対策をすればどちらにも効果があるという可能性も分かりました。今後の対策にも繋がるデータだと思います
酪農学園大学 立木	情報の共有のあり方について4年間検討をしてきました。議論に参加いただいた皆様にまずはお礼を伝えたいと思います。ひとまずある程度の方向性が出て良かったと思います。今後、色々な対策や計画について、来年度以降も含めて検討していくと思いますが、このようなデータ共有のシステムや仕組みが活用されることをとても期待しています。

	また、現地研修会で地図を使いみんなで情報共有をしましたが、個人的には1年に1度のあの機会が、良い機会になっていると思っています。隣の市町村の取り組みや困っていること等、国立公園の管理とは少し関係が薄いところもあったかもしれませんが、周辺の市町村間で情報共有ができたことは良かったと思っています。真ん中に国立公園があり、その周辺に市町村があって、色々な土地所有があるという状況なので、これを機会に交流が続けられると良いと思います。
環境省 岡野（議長）	現地研修会は非常に良い機会ということなので、ぜひこのような場は何らかの形で続けていけたらと思います。 個人的な質問になりますが、GPS装着個体のうち、例えば阿寒では夏に牧草地へ移動する個体と移動しない個体がありますが、そのような個体間ではエゾシカの栄養状態や繁殖に違いがある等の研究はあるのでしょうか。
北海道立総合研究機構 稲富	大きな違いはないと思います。利用している場所によって極端に繁殖率が悪いというよりは、基本的にエゾシカは増加しやすい動物だという認識で対処した方が良いというイメージです。極端な場所（環境）だけに生息しているエゾシカであれば、そういう可能性もあるかもしれませんが、万遍なく繁殖力が高い動物という認識を持っていた方が良いと思います。
網走南部森林管理署 会田	今のお話の続きで伺いたいのですが、ササの量が減ってきているというお話がある中で、今後それがエゾシカにどのように影響するのか、単純な話ではないと思いますが、例えば他の植物の被害が増える、エゾシカの数が減る等、どのようなことが起こり得るのでしょうか。
北海道立総合研究機構 稲富	ササはエゾシカにとって冬の重要な餌資源なので、なくなれば当然、他のものに手を出すようになります。森林管理者とすれば、ササがなくなるということは、かなり危機的な状況にあるという可能性があります。さらにササがなくなり、裸地状態になると（そこまで行くのは極端な状態ですが）土壌が流失してしまいます。それこそ仮にエゾシカを減らして、元の状態に戻したとしても植生が元に戻らないというところも出てきますので、ササがなくなるということは深刻な事態だと捉えた方が良いと思います。
EnVision 小林	【資料2②：令和6年度エゾシカ捕獲数及びライトセンサス結果】
根釧西部森林管理署 後藤	【資料2③：令和6年度川湯地区国有林エゾシカ誘引捕獲事業】
前田一步園財団 酒井	【資料2④：前田一步園財団のエゾシカ対策について】
釧路総合振興局 竹田	【資料2⑤：令和6年度エゾシカ越冬期集中捕獲事業】
環境省 岡野（議長）	他に情報提供等がある機関がございましたらご報告をお願いします。
酪農学園大学 立木	今修士の学生が摩周岳の麓に自動撮影カメラを設置し、局所的なエゾシカの密度を出そうとしています。森林内で樹皮はぎの影響が結構出ている

	ので、来年度は調査を実施予定です。
環境省 柳川	(【資料2④：前田一步園財団のエゾシカ対策について】に対して) 民有林でエゾシカ対策に使える補助金は昔から一定なのでしょう、または最近のエゾシカの増加を踏まえて補助金も増えているのでしょうか。
前田一步園財団 酒井	金額は記載の通りです。いくつか補助金のタイプがあり、最近使わせていただいているのは、北海道庁のエゾシカ森林被害防止対策事業で、2015年から10年間継続して使わせていただいています。こちらは、エゾシカの捕獲のための囲い罠を建てる費用と餌代の費用の1/2の補助をいただいています。ただし、他地域との関係で、全て1/2で出ているわけではありません。あとは、1頭当たりの捕れ高に応じた釧路市からの交付金が充実しています。また、平成24年度には、ボッケ周辺でエゾシカの捕獲事業を行う際に環境省さんからも予算をいただきました。
環境省 柳川	平成20年頃に1000万円で600頭の捕獲で、最近は捕獲数が減少していますが、その要因は为什么呢。
前田一步園財団 酒井	いくつか要因が考えられます。昔は事業委託会社では冬季に6名がエゾシカ対策に参画しており、ほとんど罠に付き、捕獲日数も週3～4回と多かったのですが、現在は人も減り、週2回の稼働となっています。 また、以前はアナログな方法で捕獲をしており、エゾシカの昼間の出没も多かったです。しかし、最近は夜の出没が多くなったため、ICTの捕獲装置を利用しています。機器の問題もあり、誤作動が多く、これらの要因が捕獲頭数の減少に繋がっていると考えられます。
環境省 柳川	環境省では釧路湿原で大型囲い罠による捕獲を行っているのですが、環境は違うところもありますが、共通の部分もあると思うので、効率的な捕獲に向けて引き続き情報共有を進めていきたいと思います。
環境省 岡野（議長）	今回、釧路総合振興局が前田一步園財団の土地で捕獲を実施していますが、連携した部分等ノウハウはありますでしょうか。
釧路総合振興局 竹田	今年は雪が少ない中、少し捕獲数が減っています。ツインゲートを利用していることで、業者としては囲い罠に入りやすくなった感覚があると言っていました。
前田一步園財団 酒井	釧路総合振興局さんとは、どこに罠を設置すれば良いかの検討の時点から一緒にすり合わせを行い、連携して実施しました。
北海道立総合研究機構 稲富	今年はオスジカが増えたとのことでしたが、知床でも捕獲効果により、オスの群れの割合が増えている場所があります。捕獲個体の性比のデータも取ってもらうことで個体群がどのように変化したのかが把握できるため、データを蓄積していただきたいと思います。
(2) 次年度の予定	
環境省 吉田	【資料3：次年度の予定】 来年度の計画改定作業は、夏頃までに事務局から個別にヒアリング等を

	させていただきながら素案を作成し、秋頃にその素案を構成員の皆様にお送りし、意見照会をする形になると思います。その中で出てきた意見を反映させながら、仕上げていくというような作業スケジュールをイメージしています。11月頃までに次期計画が固まると、次年度以降の予算要望等にも反映させることができるので、このようなスケジュールで内容を確定させたいと思っています。
釧路総合振興局 富樫	（【資料3：次年度の予定】に対して） 捕獲対策において、各事業主体で事業実施情報を共有することになっていますが、個別の取組だけではなく、国立公園全体での捕獲計画が必要なのではないかと感じました。それに基づき、どこの機関がどの場所でどの時期に捕獲を行うのか調整を行うべきではないかと思いますが、どうお考えでしょうか。 （【資料1：対策整理表（実施計画より抜粋）】に対して） 捕獲手法の部分で実施主体が環境省となっていますが、予算の関係で進んでいないという話もありました。環境省による捕獲事業の実施に関する今後の予定をお聞かせください。
環境省 吉田	資料3を作成する段階では、環境省としては捕獲事業を実施するのが難しいと考え、次期計画案を作成しているところです。一方、今ご指摘があったように、例えば、国立公園全体としてのビジョンが必要ではないかということも含め、来年度の次期計画を立てる段階で、具体的にご意見を伺いながら調整していく余地はあると考えています。
環境省 柳川	ご指摘がありました国立公園全体での捕獲のビジョンのお話ですが、当面は具体的な数値目標の設定は難しいです。知床や釧路湿原のように航空センサス等が実施されていないため、阿寒摩周では国立公園全体でのエゾシカの密度が不明です。そのため、現状では国立公園全体での捕獲目標を設定するのは難しいですが、第3期に向けても、引き続き方策を考えていく必要があります。稲富さんのご認識も伺いたいです。
北海道立総合研究機構 稲富	数値目標を立てられるならば、立てた方がよいと思います。仮に捕獲を実施しなくても、捕獲の支援という形で色々なことができるのではないかと思います。例えば、情報共有の場で構成員が能動的に情報を発信していくのが重要だと思います。道内の捕獲の大部分は市町村の許可捕獲が占めているため、ここで捕獲して欲しいなどの情報を共有することが大事になります。捕獲支援の方法も次期計画に含められるとよいと思います。第1期は情報の共有が目標でしたが、これからはその情報をどのように活用していくのかを各機関や捕獲を実施する市町村に働きかけていくことが協議会の大きな役割だと思います。
釧路総合振興局 富樫	捕獲に関して、前田一歩園財団から20年対策をしていても被害が減らないというお話がありました。これは大変深刻な状況にあると思います。協

	議会では以前からモニタリング調査を実施していますが、捕獲を進めなければ被害は減らないので、捕獲を強化することが必要だと思います。振興局でも今年度から越冬期集中捕獲事業を実施していますが、今後、この令和8年度の実施計画の策定にあたり、環境省でも捕獲事業の実施を検討していただければと思います。
酪農学園大学 立木	色々な立場の人がいて、色々な事情があると思いますが、僕としては、環境省も捕獲を少しでもするべきだと思います。色々な事情があるとは思いますが、捕獲の手法検討をする等、やり方は色々あると思います。例えば、猟友会で捕獲ができない市街地等でこそ、許可を取り環境省が捕獲する等もできないのでしょうか。情報の共有やデータの補完調査も当然必要になってくると思います。
環境省 岡野（議長）	実施計画の策定では、次年度しっかりと議論していくという形になりましたので、今日いただいたご意見を踏まえながらできることを取り組んでいきたいと思っています。なかなか予算がつかないのが現状ですが、その辺りも含め、色々検討していきます。今ご指摘いただきましたように、捕獲に限らず、このような地域では連携も重要だと思いますので、それを含めて検討していければと思います。
釧路市 安宅	捕獲については、地元として環境省におきましても積極的に捕獲をしていただければと思っています。酪農地帯でかなりの被害が出ていて、近隣の市町村と同じような状況にあります。 今回、この協議会の流れとしては、捕獲をしながらGPS首輪をもっと増やし、その情報を共有していただければ、地元に情報が還元できると考えています。そういうものを進めていく中で初めてエゾシカの個体数を減少できるのかと思います。
環境省 岡野（議長）	農林業の被害防止や周辺自治体が連携しながら防除することは重要なので、ご意見を参考に検討していきたいと思っています。
弟子屈町 西内	前田一步園財団から、過去には給餌場の目撃頭数に比例して捕獲できていたが、近年は目撃頭数が増えているにもかかわらず、捕獲頭数が減少しているというお話がありました。そういったことから、新たな捕獲手法の検討も必要なのではないかと感じました。エゾシカが箱罠、囲い罠を学習してきている可能性も考えられるため、新たな手法も検討していければ良いかと思います。また、ライトセンサス調査では、日中と夜では日中の方が、出沒頭数が少ないと感じています。夜間に畑地や草地に出沒している個体も日中は山に隠れていることから、狩猟されないようエゾシカも学習している可能性も踏まえ、新たな捕獲手法を検討すべきではないかと思います。
北海道立総合研究機構 稲富	新しい捕獲手法は大切だと思います。今日報告があった捕獲手法は基本的に囲い罠なので、囲い罠以外も色々検討しなければいけないと思いま

	す。くくりわなや銃器による捕獲もそうですが、やはり囲い罠には限界があるということを認識した上で、それぞれの場所に適した手法というものを考えていかなければいけないと思います。
酪農学園大学 立木	その通りだと思います。現地研修会でもご紹介があったと思いますが、誘引狙撃をする等色々な方法があると思います。
環境省 岡野（議長）	この地域は狩猟可能な区域が多いので、狩猟と許可捕獲を上手く組み合わせることも重要かと思います。その辺りも併せて今後とも議論を進めていければと思います。
前田一步園財団 酒井	現行の5年間で積み残しになっている阿寒地区・摩周地区の捕獲の試行は、次年度以降に実施予定はあるのでしょうか。
環境省 吉田	捕獲試行は、少なくとも来年度は実施できない方針です。
前田一步園財団 酒井	色々事情があることは分かりますが、現状として、捕獲圧を高める必要があることは、共通認識だと思います。次の5年間を考えるにあたって、全体を取り仕切る環境省として、どのような手法があるか、量は足りているのか等、質と量の両面で国立公園内では何が必要なのか、大きなビジョンを描いていただきたいです。
環境省 岡野（議長）	頂いた意見を踏まえて検討していきます。環境省としては国立公園として、特に重要な生態系をいかに保全していくかが、軸足としてあると思っています。その面で植生については、防護柵等の対応が現時点では望ましいのかなと考えているのですが、それも含めて検討させていただければと思います。今日に限らず、色々ご意見を賜ればと思っていますのでよろしくお願いいたします。
(3) その他	
環境省 吉田	●閉会挨拶